

ながのぼんち

とき じょうもんじん

「長野盆地ができる—その時縄文人は—」

南北に細長く延びた長野盆地は、西側が大きな活断層「長野盆地西縁活断層帯」で縁取られています。活断層帯の南端は篠ノ井小松原、そこから飯山市の北端まで、およそ 50km の長さがあり、30 万年前から大地震を約 1000 年に 1 回発生してきました。大地震のたびに東の盆地側が 1~2m 沈降し、西の山地側が 1~2m 隆起しました。その結果、西に山地ができ、東に長野盆地ができました。30 万年前といえば、アフリカで現世人類が発生するより 10 万年も前のことです。

千曲川流域に縄文人が生活していた 5,000 年前の遺跡は、現在までに 5 回ほどの大地震を経験し、5~10m 沈降し千曲川の砂に埋まっています。洪水を逃れて山縁に住んでいた縄文人は、茶臼山や姨捨の地滑りで被災しました。現に、姨捨地域では 3,000 年前に土石流、地滑りが発生し、姨捨棚田の地盤が形成されたことが知られています。〈塚原先生講演要旨〉



長野盆地の最南端にそびえる冠着山とさらしなの里

昨年 3 月 11 日に東日本で、その翌日には長野県栄村でも大地震が発生し、想像を絶する多くの人々が被災しました。地震が多発する日本。長野県下では江戸時代に起きた善光寺地震、また 40 年ほど前から数年続いた、松代群発地震が知られています。私たちが住むこの大地の下、地球内部では、はたしてどのような現象が起こっているのでしょうか？地震が発生するメカニズムとは？

今回、長年にわたり地震学を中心に地球科学の研究を続けておられる〈地震学の第一人者〉塚原弘昭先生をお招きし、長野県の県歌「信濃の国」に歌われている「四つの平」のひとつ、古くから善光寺平と呼ばれる長野盆地の成り立ちと、そこに暮らしていた縄文人について、画像も交え、解明していただきます。四方を山々に囲まれ、中央に千曲川が蛇行する自然豊かで肥沃な長野盆地。最南端には姨捨伝説で名高い冠着山(かむりきやま)がそびえたっています。その裾野に暮らしていたさらしなの里の縄文人も地震を体感していたのでしょうか？

私たちが日本列島に暮らしている以上、自然の営みのひとつである地震とは縁が切れません。この地球に起こる地震の成り立ちを科学的に理解し、さらに過去の歴史も知ることで、地震と向き合い、生命を守る防災の心構えを深める契機にしていいただければと思います。

「地震学のスペシャリスト」塚原弘昭先生が 今、私たちが暮らす大地の成り立ち、歴史を解き明かす!!

つかはら ひろあき
■講師: **塚原弘昭先生**
信州大学名誉教授 / 地震学者
めいとくじ
明徳寺(千曲市羽尾)住職

■日時: 平成 24 年 **3 月 20 日(火)**
春分の日
PM1:30~3:00

■会場: 千曲市さらしなの里歴史資料館

■入場無料 ■事前申込み不要

お問い合わせ

財団法人 千曲市文化振興事業団
千曲市さらしなの里歴史資料館

〒389-0812 長野県千曲市大字羽尾 247-1

TEL 026-276-7511 FAX 026-261-4161

<http://www.city.chikuma.nagano.jp>

■プロフィール■

- 1944 年~
 - 長野県千曲市羽尾(旧戸倉町)出身
 - 東北大学理学部卒
 - 名古屋大学大学院理学研究科博士課程進学
- 1974 年~
 - 科学技術庁国立防災科学技術センター(現:防災科学技術研究所)首都圏地震予知研究室研究員として勤務
- 1983 年~
 - 同センター地震地下水研究室長
- 1990 年~
 - 同センター地殻力学研究室長
- 1992 年~
 - 信州大学理学部教授
- 2010 年~
 - 信州大学名誉教授
 - 真言宗亀慶山明徳寺住職
 - さらしなの里友の会文化部副部長

■著書■

- 2002 年 「地震と防災糸糸川-静岡構造線」
- 2011 年 「長野県の地震入門」

■共著■

- 1994 年 「大地が語る信州の 4 億年」
- 2003 年 「善光寺地震から学ぶ」
- ほか論文等多数